

三省堂『現代の国語』

教科書の改訂に伴う 指導用参考資料

◆ 継続教材（説明的文章）の変更点

三省堂平成28年度版『現代の国語』から継続して令和3年度版『現代の国語』に掲載している説明的文章教材のうち、次の教材につきましては、本文の改訂を行いました。

- 第2学年「壁に残された伝言」……………2
- 第2学年「動物園でできること」……………3
- 第3学年「フロン規制の物語——〈杞憂と〈転ばぬ先の杖〉のはざまで」……………6
- 第3学年「情報社会を生きる——メディア・リテラシー」……………7

本文の具体的な改訂内容につきましては、次ページからの表に示しています。
ご参照ください。

なお、表では次の印を用いて改訂内容を示しています。

- ↓ 平成28年度版の教科書から削除した部分
- ↓ 平成28年度版の教科書から変更した部分
- ↓ 平成28年度版の教科書に新たに追加した部分

令和3年3月

三省堂

●第2学年「壁に残された伝言」

平成28年度版『現代の国語』		令和3年度版『現代の国語』	
<p>【P 77 L 16 ～ P 78 L 1】</p> <p>しかも校舎は、老朽化を理由に、翌年には取り壊されることが決まっていた。このとき発見されていなかったら、そのまま取り壊されていたろうし、たとえ発見されても、その時期があと少し遅ければ詳細な調査はされなかったと想像される。</p>	(削除)		
<p>【P 81 L 14 ～ 15】</p> <p>新しい伝言はどれくらい見つかったのか。結論からいえば、塗り直しは思ったより丁寧だった。</p>	(削除)		
<p>【P 82 L 5】</p> <p>そもそも壁を剥がす調査など行われなかったかもしれない。</p>	(削除)		
<p>【P 82 L 14】</p> <p>次から次へと疑問がわいてくるばかりだった。</p>	(削除)		

●第2学年「動物園でできること」

平成28年度版『現代の国語』		令和3年度版『現代の国語』	
<p>【P 130 L 5 ～ 6】 動物園を楽しむ人々の姿に日々接することが<u>できる</u>のは、そこで働く者としても大変<u>うれしい</u>。</p> <p>【P 131 L 9 ～ 10】 私は<u>現在</u>、動物園で飼育係をしながら、そこで行われる教育活動に<u>従事</u>している。つまり、野生動物や自然環境を学ぶ場を提供することについて研究し、実践することが私の<u>仕事だ</u>。</p> <p>【P 131 L 19 ～ 20】 けれども、野生動物については、これらの触れ合い体験を行うことは<u>難しい</u>。</p> <p>【P 132 L 1 ～ 4】 もし、触れ合いが可能であったとしても、そうした体験を通して知る野生動物の姿は、彼らが実際に自然の中で暮らす姿とはずいぶんかけ離れたものとなる。動物に親しみ、動物を好きになってもらうことは学びの面からも大事なことだが、このような触れ合いイベントは、野生動物を理解することとは結びつきにくいと<u>考えられる</u>。</p> <p>【P 132 L 10 ～ 11】 私の勤める旭川市旭山動物園は、この二つを両立させる動物園でありたいと考え、実践してきた。</p>	<p>【P 182 L 5 ～ 6】 動物園を楽しむ人々の姿に日々接することが<u>できた</u>のは、そこで働く者としても大変<u>うれしかった</u>。</p> <p>【P 183 L 8 ～ 9】 私は、動物園で飼育係をしながら、そこで行われる教育活動に<u>従事</u>してきた。つまり、野生動物や自然環境を学ぶ場を提供することについて研究し、実践することが私の<u>仕事だった</u>。</p> <p>【P 183 L 18 ～ 19】 けれども、野生動物については、これらの触れ合い体験を行うことは<u>悩ましい</u>。</p> <p>【P 183 L 20 ～ P 184 L 3】 もし、触れ合いが可能であったとしても、そうした体験を通して知る野生動物の姿は、彼らが実際に自然の中で暮らす姿とはずいぶんかけ離れたもの<u>考える</u>。動物に親しみ、動物を好きになってもらうことは学びの面からも大事なことだが、このような触れ合いイベントは、野生動物を理解することとは結びつきにくいと<u>思えた</u>。</p> <p>【P 184 L 9 ～ 10】 私の勤めていた旭川市旭山動物園は、この二つを両立させる動物園でありたいと考え、実践してきた。</p>		

<p>【P 132 L 12 ～ 13】 私たちが飼育するボルネオオランウータンは、東南アジアに位置するボルネオ島の熱帯雨林に生息している。</p>	<p>【P 184 L 11 ～ 12】 旭山動物園が飼育しているボルネオオランウータンは、東南アジアに位置するボルネオ島の熱帯雨林に生息している。</p>
<p>【P 134 L 12 ～ 18】 ところで、私たちの動物園では、担当する動物の解説を飼育係が自ら行うというスタイルをとっている。日夜、その動物とつき合っている者ならではの発見や理解があり、担当の飼育係であれば、それを直接伝えることができるという発想だ。</p>	<p>【P 185 L 5 ～ 10】 ところで、旭山動物園では、担当する動物の解説を飼育係が自ら行うというスタイルをとっている。日夜、その動物に向き合っている者ならではの発見や理解があり、担当の飼育係であれば、それを直接伝えることができるという発想だ。</p>
<p>【P 135 L 4 ～ 5】 一人一人が個性や経験を生かしながら、楽しい「学びの場」づくりを目指して、試行錯誤を続けているところである。</p>	<p>【P 186 L 1 ～ 2】 一人一人が個性や経験を生かしながら、楽しい「学びの場」づくりを目指して、試行錯誤を続けている。</p>
<p>【P 135 L 6 ～ 7】 次に紹介するのは、私たちの動物園の冬の風物詩ともいえる「ペンギンの散歩」である。私たちは四種類のペンギンを飼育しており、そのうちキングペンギンが園内を集団で「散歩」する。</p>	<p>【P 186 L 3 ～ 4】 次に紹介するのは、旭山動物園の冬の風物詩ともいえる「ペンギンの散歩」である。旭山動物園では四種類のペンギンを飼育しており、そのうちキングペンギンが園内を集団で「散歩」する。</p>
<p>【P 136 L 1 ～ 5】 けれども、そのすごさやたくましさを知ると、もはや、かわいいだけでは、彼らに対して申しわけない気持ちになるのだ。</p>	<p>【P 187 L 4 ～ 5】 けれども、そのすごさやたくましさを知ると、もはや、「かわいい」という言葉だけでは、彼らに対して申しわけない気持ちになるのだ。</p>

【P 136 L 6 ～ 20】

自然の中で暮らすペンギンのたくましい姿にも思いをよせてほしいという願いから、私たちは、なんの脚色もせず、ただ彼らが歩く姿を見てもらう散歩を行っている。また、そのたくましさを感じ取ってもらうための一つのお手伝いとして、散歩前に彼らの野生下の様子を解説する時間を設けている。「ペンギンの散歩」には、たくさんの来園者が集まるので、どうしても解説が演説のようになってしまうのがもどかしいが、そうしたペンギンたちの姿を、毎年多くの人が楽しみにしてくれている。

【P 137 L 12 ～ 14】

けれども、どちらの動物も地球上の生物の豊かさを構成している一員であり、その点でエゾシカとジャイアントパンダに違いはない。

【P 138 L 1 ～ 2】

このように、オランウータンもペンギンもエゾシカも、それ以外の動物の場合でも、私たちは、野生動物としての魅力を引き出す展示を行い、彼らについて解説することを心がけている。

【P 187 L 6 ～ 11】

自然の中で暮らすペンギンのたくましい姿にも思いをよせてほしいという願いから、なんの脚色もせず、ただ彼らが歩く姿を見てもらう散歩を行っている。また、そのたくましさを感じ取ってもらうための一つのお手伝いとして、散歩前に彼らの野生下の様子を解説する時間を私は設けている。「ペンギンの散歩」には、たくさんの来園者が集まるので、どうしても解説が演説のようになってしまうのがもどかしかったが、そうしたペンギンたちの姿を、毎年多くの人が楽しみにしてくれている。

【P 188 L 6 ～ 9】

けれども、どちらの動物も地球上の生物の豊かさを構成している一員であり、その点でエゾシカとジャイアントパンダに違いはないはずだ。

【P 188 L 17 ～ 18】

このように、オランウータンもペンギンもエゾシカも、それ以外の動物の場合でも、野生動物としての魅力を引き出す展示を行い、彼らについて解説することを心がけてきた。

●第3学年「フロン規制の物語——〈杞憂〉と〈転ばぬ先の杖〉のはざままで」

平成28年度版『現代の国語』		令和3年度版『現代の国語』	
【P 87 L 3 ～ 4】	その領域は太陽からの紫外線が強くなりますから、頑健なフロンも分解されます。	【P 90 L 20 ～ P 91 L 1】	その領域は地上付近に比べて太陽からの紫外線が強くなりますから、頑健なフロンも分解されます。
【P 88 L 10 ～ 12】	要するに、その時点ではオゾン層やフロンについて 説明して いる事実が不十分で、科学的な議論だけでは、今後フロンをどうすべきか、決まらない状態にあったのです。	【P 92 L 2 ～ 4】	要するに、その時点ではオゾン層やフロンについて 説明されて いる事実が不十分で、科学的な議論だけでは、今後フロンをどうすべきか、決まらない状態にあったのです。
【P 88 L 15】	モントリオールへの道	(削除)	
(小見出し追加)		【P 92 L 18】	モントリオールへの道

●第3学年「情報社会を生きる——メディア・リテラシー」

<p>平成28年度版『現代の国語』</p>	<p>令和3年度版『現代の国語』</p>
<p>【P132 L2～3】 二〇一〇年のNHK国民生活時間調査によれば、日本人が一日にテレビを見る時間は、平均三時間二十八分。</p>	<p>【P142 L2～3】 NHK放送文化研究所による二〇一五年の「国民生活時間調査」によれば、日本人が一日にテレビを見る時間は、平均三時間一八分。</p>